

○計画期間：平成27年12月～令和3年3月（5年4月）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成30年度終了時点（平成31年3月31日時点）の中心市街地の概況

本市は、前基本計画（平成20年11月～平成26年3月）における中心市街地の現状分析及び取組効果の検証を踏まえ、平成27年12月に新たな基本計画の認定を受けた。「人でにぎわうまちづくり」、「ふるさとを活かしたまちづくり」、「安心して暮らせるまちづくり」の3つの方針のもとで事業を実施することにより、「人が集まり、歩いて楽しめ、元気に暮らせる中心市街地」を目指している。

本市の中心市街地は、地域における行政、経済、文化、教育、医療、福祉、娯楽など、多様な都市機能が高度に集積されるとともに、鳥取県西部圏域の道路、鉄道等の交通網が中心市街地を起点に整備され、圏域の様々な便益を提供する「まちの心臓」としての役割も担ってきた。

しかしながら、近年においては、少子高齢化による定住人口の減少のほか、車社会の進展、郊外への大型店の進出等により、中心市街地に集積していたオフィス機能や商業機能も低下してきている。前計画の取り組みにより、中心市街地においては商業環境の整備、文化施設の拡充等による一定の成果が見られるが、引き続き都市機能の増進及び社会・経済活力の向上を総合的かつ一体的に推進する必要がある。

最近の状況としては、2核1モールの一つの核である角盤町周辺エリアにおいて、平成28年1月に「やよいデパート」が撤退し、これを受け、当該エリア全体の事業再構築をする「角盤町エリア活性化プロジェクト会議」を設置し、活性化策の検討を重ねた。その結果、平成29年度には「ひまわり駐車場整備事業」が実施され、平成30年度からは整備されたひまわり駐車場をイベント会場として活用するソフト事業が、地元の民間主導で実施されており、新たなにぎわいの創出につながっている。

一方、もう一つの核である米子駅周辺エリアについては、駅前の商業核のひとつであるイオン米子駅前店が初めて満床となるなど、企業活動が活発になってきた兆しがある。また、平成30年度はホテルの進出も決まり、来街者の増加による一層の地域活性化が期待されている。

これら二つのエリアについて、核にふさわしい集客・回遊ゾーンを構築することで波及効果を中心市街地全体に行きわたらせ、その活性化に繋げるべく、事業者と関係機関が一体となって効果的な事業実施に向け取り組むこととしている。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(基準日 毎年度3月31日)

(中心市街地 地域)	平成26年度 (計画前年度)	平成27年度 (1年目)	平成28年度 (2年目)	平成29年度 (3年目)	平成30年度 (4年目)
人口	5,004人	4,942人	4,885人	4,770人	4,672人
人口増減数	-75人	-62人	-57人	-115人	-98人
自然増減数	-34人	-64人	-45人	-70人	-66人
社会増減数	-41人	+2人	-12人	-45人	-32人
転入者数	314人	387人	329人	304人	299人

2. 平成30年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

米子市中心市街地活性化基本計画(新計画)で定める2核の内、角盤町周辺エリアは平成27年度において「やよいデパート」が閉店し、平成28年度に実施を予定した(株)米子高島屋を実施主体とする戦略補助金事業も補助金の取得ができず頓挫し、角盤町商店街への集客が減少の一途を辿った。

しかしながら、その後「やよいデパート」跡地を取得した民間事業者が地元の意向及び中心市街地活性化への協力を意識し、駐車場に整備した。また、米子高島屋を実施主体とする事業は「角盤町エリア活性化プロジェクト会議」での活性化策の検討を経て、事業が再構築される予定となっている。

「角盤町エリア活性化プロジェクト会議」は平成30年度から、官民が一体となった「角盤町中心市街地にぎわい創出プロジェクト会議」に組織改編され、角盤町商店街振興組合が主催し、整備された駐車場と商店街アーケード通りを活用したソフト事業(米子地ビールフェスタ、つながるマルシェ等)の開催支援や、近隣文化施設で官民が行う各種事業の連携に取り組んでおり、新たなにぎわいの創出につながっている。

また、もう1つの核である米子駅周辺については、行政、経済団体、地元事業者、有識者からなる「米子駅活性化専門家委員会」を米子市が設置し、令和4年度(2022年度)に完成予定である「米子駅南北自由通路等整備事業」に伴う同駅周辺活性化について協議が行われた。今後、同委員会で協議された案件については、民間事業者の参入も検討しながら、米子駅の周辺活性化に向けた計画や事業が期待できる。

今後も以上のような取組みにより、引き続き米子市及び当協議会が連携支援して積極的な事業推進が図られることにより、中心市街地活性化基本計画が進捗していくものと評価している。

II. 目標毎のフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し							
目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
人が集いにぎわうまち	歩行者等通行量 (自転車含む)	12,945 人 (H26)	13,200 人 (R2)	12,477 人 (H30)	C	③	③
	駐車場の利用台数 (時間貸しのみ)	1,498,308 台 (H26)	1,515,000 台 (R2)	1,298,837 台 (H30)	C	③	③
歴史や文化、自然に触れ合えるまち	文化施設の利用者数	1,138,317 人 (H25)	1,140,000 人 (R2)	1,083,073 人 (H29)	C	③	③
	下町観光ガイドの利用者数	956 人 (H26)	1,380 人 (R2)	2,106 人 (H30)	A	③	①
住みたくなるまち	人口の社会増減	H22～27 年の平均 -5 人 (3 月末時点)	H28～R3 年の平均をプラスに (3 月末時点)	H28～31 年の平均 -22 人 (3 月末時点)	C	②	②

<基準値からの改善状況>

A: 目標達成 B: 基準値達成 C: 基準値未達成

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

【歩行者等通行量について】

角盤町エリアが「やよいデパート」の撤退以降大きく減少していたところ、平成30年度は上昇に転じている。これは、新たに実施しているソフト事業等の活性化策が結果につながったとみられる。また、駅前エリアにおいても前年と比較して良好な結果となっており、この2核のにぎわいがエリア全体に浸透することで、今後、数値の回復が期待でき、目標達成可能と見込まれる。

【駐車場の利用台数について】

本年度は米子駅前地下駐車場と民間駐車場（4箇所の合計）の利用台数が減少したため、最新値も大きく減少した。これは、米子駅前地下駐車場については、改修工事のため平成30年11月から利用停止になったため、工事は令和元年7月まで予定されている。米子駅前地下駐車場の利用停止に伴い、近接している万能町駐車場や米子駅前簡易駐車場の利用台数が増加しているが、減少幅を満たすほどの増加とはならなかった。改修工事が終了し、利用者の利

便性が向上すれば、利用台数の増加につながると見込まれる。

民間駐車場（4箇所の合計）については、角盤町エリアの駐車場利用台数が減少したことによるが、これは、撤退した「やよいデパート」の跡地に整備され、最新値の調査対象とはなっていない「ひまわり駐車場」に駐車場の利用が分散しているためと考えられる。

今後の角盤町エリアの見通しとしては、平成30年度から角盤町中心市街地にぎわい創出プロジェクトにおいて、同エリアで実施するソフト事業等の活性化策の検討や官民が協力した支援連携が進んでおり、「地ビールフェスタ」など新たなソフト事業の実施によるにぎわいの創出が図られている。また、令和元年度中には、事業の見直しが進んでいた商都米子再興戦略・キッズサポート施設整備事業が民間事業者により新たな事業として再構築され、事業実施が見込まれている。

これら来街者の利便性を高める改修事業の実施や、活性化策の事業展開の進展によって、新たな賑わいの創出が期待できることから、目標達成可能と見込まれる。

【文化施設の利用者数について】

文化施設の利用者数については概ね堅調に推移していたが、コンベンションセンターの利用者数が減少したため、最新値は前年に比べ28,877人減少した。これは、コンベンションセンター内にある一部施設で改修工事が行われたためで、今後も同施設は順次、改修工事が計画されている。その他の施設の利用者数は堅調に推移しており、コンベンションセンターの改修工事が終了し通年の利用者数が積算できるようになれば、目標達成は可能であると見込まれる。

【下町観光ガイドの利用者数について】

観光ガイド事業は平成29年度までは米子市観光協会が実施していたが、平成30年4月からは民間の団体である「米子観光まちづくり公社」が行うことになった。米子観光まちづくり公社が観光ガイド事業を行うようになってから、個人旅行者のニーズをより一層取り込むことに成功し、利用者数は大幅に増加した。その結果、目標値を越える数値を達成することができた。今後も官民が連携して、利用者数の増加に努めていく。

【人口の社会増減について】

空き家を活用した事業は徐々に増えつつあるが、民間共同住宅の建設が少なかったことも影響し、中心市街地人口の社会動態については基準値を下回る結果となった。今後も引き続き中心市街地の有利性を情報発信し、民間共同住宅の建設や空き家活用を促していく。

なお、現状では目標達成可能とは見込まれず、対策の検討を引き続き重ねる。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

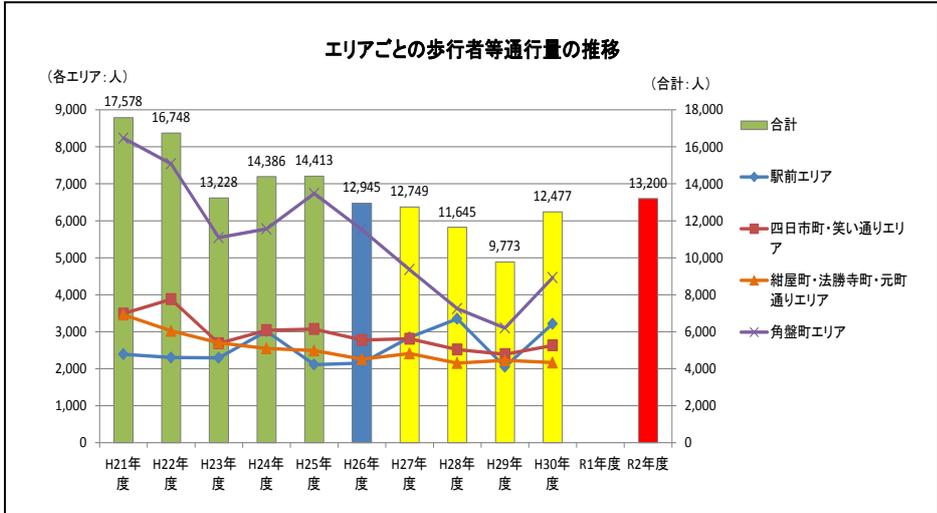
【下町観光ガイドの利用者数について】

観光ガイド事業を「米子観光まちづくり公社」が行うようになってから、観光ガイド利用者は大幅に増加した。今後も堅調に推移することが見込まれることから、③から①へ見通しを変更した。

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「歩行者等通行量（自転車を含む）」※目標設定の考え方基本計画 P58～P65 参照

●調査結果の推移



年	(人／年度)
H26	12,945 (基準年値)
H27	12,749
H28	11,645
H29	9,773
H30	12,477
R1	
R2	13,200 (目標値)

※調査方法： 平日、休日の6日間実施。調査地点12地点において、調査時間を10時～17時までとし、毎時30分間計測。平日平均値、休日平均値を合計した。

※調査月： 平成30年10月・11月

※調査主体： 米子市

※調査対象： 自転車を含む中学生以上の歩行者

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. にぎわいのある商店街づくり事業（米子市）

事業実施期間	平成17年度～ 【実施中】		
事業概要	空き店舗に出店する事業者に店舗改修費等の助成を行い、商店街の魅力や集客力を高めるとともに、空き店舗の解消を図る。		
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成27年度～平成32年度）		
事業効果及び進捗状況	・新規出店見込み数と実績数		
	エリア名	見込み (H27～R2年度)	実績 (H27～H30年度)
	法勝寺町・元町周辺	5店舗	4店舗
	四日市町周辺	8店舗	1店舗
	角盤町周辺	3店舗	2店舗
	その他地区	4店舗	2店舗
	合計	20店舗	9店舗
平成30年度は、法勝寺・元町周辺で3店舗、角盤町周辺で1店舗の出店があった。また、他事業の活用によって角盤町周辺に新たな出店も見込まれている。当該事業としては完了することにより200人の歩行者等通行量の増加を見込んでいるが、それら他事業との相乗効果により、ま			

	ちなかの賑わい創出につなげたい。
事業の今後について	引き続き空き店舗の出店する事業者を積極的に募集し、商店街の魅力や集客力を高めるとともに、空き店舗の解消を図る。

②. 新生米子市立図書館の運営（米子市）

事業実施期間	平成 25 年度～ 【実施中】
事業概要	図書の出しのみならず、ビジネス支援、多目的スペースを活用した市民の生涯学習の発表の機会の提供などを含めた図書館の運営
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	来館者数については、平成25年8月のリニューアルオープンから堅調に推移している。進捗状況として、図書館の利用案内（パンフレット）、ホームページ、図書館だより（毎月1回発行）等に多目的スペースのPRやイベント案内を掲載し、特定のテーマに特化した展示コーナーを増やすなど利用促進に努め、多様なニーズに対応している。また公式SNS（Facebook、Twitter、Instagram）を開設し、イベント情報や研修室開放状況など即時性の高い情報を提供することで、幅広い年齢層の新たな図書館利用者の拡大に努めている。
事業の今後について	図書館来館者数は堅調に推移しており、引き続き利用者の拡大に努める。

③. 山陰歴史館整備事業（米子市）

事業実施期間	【未】 [認定基本計画：平成28年度～平成31年度]
事業概要	「伯耆の国よなご文化創造計画（後期計画）」に基づき、老朽化している山陰歴史館を整備することにより、来館者や利用者の拡大を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成27年度に米子市庁内プロジェクトチームを組織し検討を重ねている。平成30年度は、小規模な改修を行い来客者の利便性の向上させ、ソフト事業を通じて入館者数の増加につなげた。引き続き、まちなかの賑わい創出につながる検討を重ねていく。
事業の今後について	整備については庁内プロジェクトチームによる検討を引き続き行い、改修を実施していく。利用者の拡大については、「米子城・魅せる！プロジェクト事業」等との連携を図り、山陰歴史館の利用拡大を図っていく。

④. 米子駅南北自由通路等整備事業（米子市）

事業実施期間	平成26年度～平成34年度 【実施中】
事業概要	鉄道で分断されている米子駅の南北地区をバリアフリー化に配慮した自

	由通路で連絡し、歩行者等の安全性・利便性の向上や駅周辺の活性化を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（国土交通省）（平成27年度） 防災・安全交付金（国土交通省）（平成28年度～32年度）
事業効果及び進捗状況	平成26年度 事前調査 平成27年度 予備設計及び補償予備調査 平成28年度 補償本調査及び都市計画決定、詳細設計（駅南広場） 支障移転補償（H28～R4年度） 平成30年度～令和元年度 詳細設計（自由通路） 令和2年度 工事着手（予定） 令和4年度 竣工（予定） 当該事業については、当初の計画より遅れが生じ、計画期間内での効果の発現は困難であると想定される。ただし、事業が完了することにより360人の通行量増加を見込んでおり、まちなかの賑わい創出につながる。
事業の今後について	事業はおおむね順調に進捗しており、引き続き、適切な事業管理に努める。

⑤. 民間共同住宅建設事業（民間事業者）

事業実施期間	平成27年度～【実施中】
事業概要	民間事業者による共同住宅の建設
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成27年度 3棟（110戸）竣工 平成28年度 3棟（48戸）竣工 平成29年度 1棟（3戸）竣工 平成30年度 1棟（18戸）竣工 これらの共同住宅の建設により、次回調査時に効果が現れることを期待している。
事業の今後について	中心市街地の高い機能性や利便性を情報発信し、民間事業者による開発の後押しをしていく。

⑥. 商都米子再興戦略・キッズサポート施設整備事業（（株）米子高島屋）

事業実施期間	【未】 [認定基本計画：平成28年度～]
事業概要	米子高島屋東館の空床スペースを改装し、子どもの遊びを通じた知育・体育プログラムを提供する施設の整備、子育て中の人々のニーズが満たせる子育てカフェ（ママカフェ）の設置、育児グッズや育児玩具を集積した売場の新設、地元のケーブルテレビ局と連携したスタジオの開設など整備を行う。

国の支援措置名及び支援期間	地域・まちなか商業活性化支援事業のうち先導的・実証的事業 (経済産業省) (平成28年度)
事業効果及び進捗状況	平成28年度実施に向け申請していたが不採択となり、内容をブラッシュアップし、事業実施に向け取り組むこととしていたところ、角盤町エリアにある「やよいデパート」が撤退し、来街者数等に大きな変化が生じた。このため、エリア全体の事業再構築が必要となった。
事業の今後について	現在は、「角盤町エリア活性化プロジェクト会議」におけるエリア活性化策の検討を終え、当該事業も事業内容の見直しが進み、令和元年度中に事業が再構築される予定としている。

⑦. 商都米子再興戦略・商業施設整備事業 ((株)リサ・クリエイティブプロダクツ)

事業実施期間	【未】 [認定基本計画：平成28年度～]
事業概要	子ども連れでも気軽に飲食等ができ、米子高島屋が整備を予定しているキッズサポート施設との相乗効果が期待できる商業施設の整備。
国の支援措置名及び支援期間	地域・まちなか商業活性化支援事業のうち先導的・実証的事業 (経済産業省) (平成28年度～)
事業効果及び進捗状況	相乗効果を狙っていた米子高島屋の「商都米子再興戦略・キッズサポート施設整備事業」の事業見直し、同エリアにある「やよいデパート」の撤退などにより、角盤町エリア全体の事業再構築が必要となり、事業実施に至っていない。
事業の今後について	現在は、「角盤町エリア活性化プロジェクト会議」におけるエリア活性化策の検討を終え、当該事業も事業内容の見直しに向かって個別の検討が進んでいる。

⑧. よなごまちなかコミュニティ活性化支援事業 (米子市)

事業実施期間	平成27年度～ 【実施中】
事業概要	地域活性化に資する生活支援サービスやコミュニティ拠点施設・ゲストハウスの運営、コミュニティビジネスの起業等の取組に要する経費を支援する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成27年度、平成29年度にそれぞれ1軒のコミュニティスペース・ゲストハウスがオープンし順調に運営されている。しかし、平成30年度は空き家等の物件と事業プレイヤーのマッチングが成立に至らず、当該事業としての進捗はなかった。なお、当該事業が完了することにより50人の通行量増加を見込んでおり、他事業の活用により新規オープンしたコミュニティ食堂、サテライト研究室・レンタルスペースなどとの相乗効果により、まちなかの賑わい創出につなげたい。

事業の今後について	積極的な情報発信を通じて、事業プレイヤーの掘り起こしを行い、事業実施につなげたい。
-----------	---

⑨. ひまわり駐車場整備事業（(株)アバロン）【平成29年度追加】

事業実施期間	平成29年度 【済】
事業概要	電気自動車充電設備を備えた、広い駐車スペースの平面駐車場の整備と、植栽による良好な景観形成を推進する事業 駐車台数 160台 電気自動車充電設備 6基(12台分) 植栽 総延長=230.7m
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	駐車スペースが広く環境に配慮された平面駐車場を整備することで、中心市街地の商業施設、文化施設等を訪れる人の利便性の向上を図り、まちなかの賑わい創出につなげる。
事業の今後について	整備は平成29年度に完了し、現在は、駐車場としての活用だけでなく、角盤町エリアで実施しているイベント企画の会場にも活用されている。今後も積極的な活用が見込まれている。

⑩. 道笑町2丁目ゲストハウス整備事業（山陰ステキ不動産）【平成29年度追加】

事業実施期間	平成29年度 【済】
事業概要	奥行き長い町家形式の空き家を活用し、ゲストハウス及びシェアオフィスを複合的に整備する事業
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	空き家の活用によりゲストハウス兼コミュニティスペースを整備することで、地域コミュニティ活性化に寄与するとともに、インバウンド等来街者の多様なニーズに応え、賑わいや交流の創出を図る。
事業の今後について	整備は平成29年度に完了しており、インバウンド等来街者の増加や新たな交流の拠点としての機能が期待されている。

●目標達成の見通し及び今後の対策

歩行者等通行量の最新値（平成30年10月・11月調査）は、基準年値と比較して約4%（468人）減少している。しかしながら、前年と比較すると2,704人増加しており、特に角盤町エリアでは「やよいデパート」の撤退以降大きく減少していたところ、上昇に転じている。現在角盤町エリアにおいては、角盤町商店街でのイベント開催時に「ひまわり駐車場」の一部を活用するなど相互利用を促進する活性化策が進んでおり、このような取組が周辺エリア全体に浸透することで、賑わいの再生が期待される。

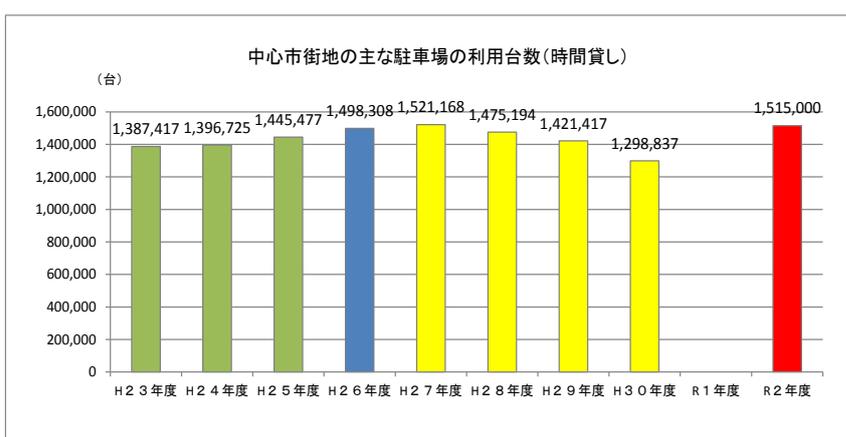
米子駅周辺エリアでは平成30年度に民間ホテルの進出が決定し、令和元年度から開業予定となるなど、駅前エリアの新たな賑わいの創出につながる動きが盛んであり、当

面、順調な推移が期待できる。

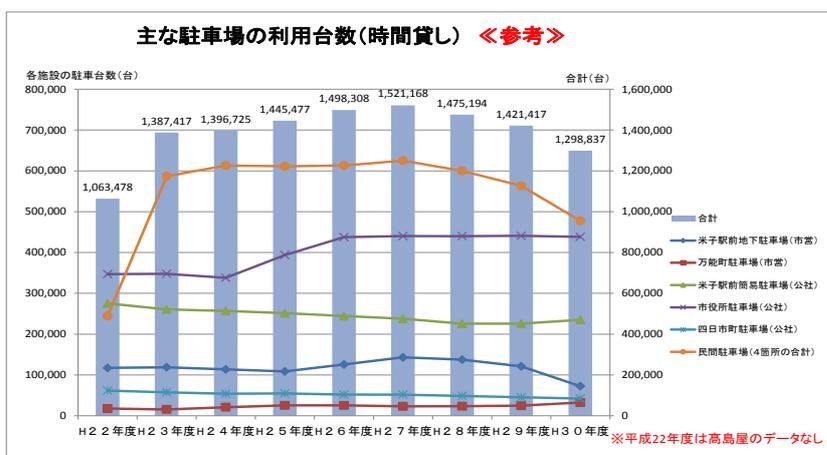
　　今後は、角盤町エリアと米子駅周辺エリアと合わせた二つの核を起点に中心市街地全体に賑わいの効果を波及させ、目標達成に向けて実績を伸ばしていきたい。

「駐車場の利用台数（時間貸しのみ）」※目標設定の考え方基本計画 P65～P69 参照

●調査結果の推移



年	(台/年度)
H26	1,498,308 (基準年値)
H27	1,521,168
H28	1,475,194
H29	1,421,417
H30	1,298,837
R1	
R2	1,515,000 (目標値)



※調査方法： 公営・民間合わせて9箇所を設定し、各施設の所有者からの報告により把握

※調査月： 平成31年4月（前年度4月～3月の合計）

※調査主体： 米子市

※調査対象： 米子駅前地下駐車場（市営）、万能町駐車場（市営）、米子駅前簡易駐車場（公社）
市役所駐車場（公社）、四日市町駐車場（公社）、民間駐車場（4箇所）の計9箇所の時間貸しのみ

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 山陰歴史館整備事業（米子市）

事業実施期間	【未】 [認定基本計画：平成28年度～平成31年度]
事業概要	「伯耆の国よなご文化創造計画（後期計画）」に基づき、老朽化している山陰歴史館を整備することにより、来館者や利用者の拡大を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進	平成27年度に米子市庁内プロジェクトチームを組織し検討を重ねてい

捗状況	る。平成30年度は、小規模な改修を行い来客者の利便性の向上させ、ソフト事業を通じて入館者数の増加につなげた。整備が完了することにより、724台/年の利用台数の増加を見込んでおり、来街者をまちなかに呼び込む効果が期待される。
事業の今後について	整備については庁内プロジェクトチームによる検討を引き続き行い、改修を実施していく。利用者の拡大については、「米子城・魅せる！プロジェクト事業」等との連携を図り、山陰歴史館の利用拡大を図っていく。

②. 商都米子再興戦略・キッズサポート施設整備事業（(株) 米子高島屋）

事業実施期間	【未】 [認定基本計画：平成28年度～]
事業概要	米子高島屋東館の空床スペースを改装し、子どもの遊びを通じた知育・体育プログラムを提供する施設の整備、子育て中の人のニーズが満たせる子育てカフェ（ママカフェ）の設置、育児グッズや育児玩具を集積した売場の新設、地元のケーブルテレビ局と連携したスタジオの開設など整備を行う。
国の支援措置名及び支援期間	地域・まちなか商業活性化支援事業のうち先導的・実証的事业 (経済産業省) (平成28年度)
事業効果及び進捗状況	平成28年度実施に向け申請していたが不採択となり、内容をブラッシュアップし、事業実施に向け取り組むこととしていたところ、角盤町エリアにある「やよいデパート」が撤退し、来街者数等に大きな変化が生じた。このため、エリア全体の事業再構築が必要となった。
事業の今後について	現在は、「角盤町エリア活性化プロジェクト会議」におけるエリア活性化策の検討を終え、当該事業も事業内容の見直しが進み、令和元年度中に事業が再構築される予定としている。

③. にぎわいのある商店街づくり事業（米子市）

事業実施期間	平成17年度～ 【実施中】		
事業概要	空き店舗に出店する事業者到店舗改修費等の助成を行い、商店街の魅力や集客力を高めるとともに、空き店舗の解消を図る。		
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成27年度～平成32年度）		
事業効果及び進捗状況	・新規出店見込み数と実績数		
	エリア名	見込み (H27～R2年度)	実績 (H27～H30年度)
	法勝寺町・元町周辺	5店舗	4店舗
	四日市町周辺	8店舗	1店舗
	角盤町周辺	3店舗	2店舗
その他地区	4店舗	2店舗	

	合計	20店舗	9店舗
	平成30年度は、法勝寺・元町周辺で3店舗、角盤町周辺で1店舗の出店があった。また、他事業の活用によって角盤町周辺に新たな出店も見込まれている。当該事業としては完了することにより8,760台/年の利用台数増加を見込んでいるが、それら他事業との相乗効果により、より多くの来街者をまちなかに呼び込む効果に期待したい。		
事業の今後について	引き続き空き店舗の出店する事業者を積極的に募集し、商店街の魅力や集客力を高めるとともに、空き店舗の解消を図る。		

④. 商都米子再興戦略・商業施設整備事業（(株)リサ・クリエイティブプロダクツ）

事業実施期間	【未】 [認定基本計画：平成28年度～]
事業概要	子ども連れでも気軽に飲食等ができ、米子高島屋が整備を予定しているキッズサポート施設との相乗効果が期待できる商業施設の整備。
国の支援措置名及び支援期間	地域・まちなか商業活性化支援事業のうち先導的・実証的事业 (経済産業省) (平成28年度～)
事業効果及び進捗状況	相乗効果を狙っていた米子高島屋の「商都米子再興戦略・キッズサポート施設整備事業」の事業見直し、同エリアにある「やよいデパート」の撤退などにより、角盤町エリア全体の事業再構築が必要となり、事業実施に至っていない。
事業の今後について	現在は、「角盤町エリア活性化プロジェクト会議」におけるエリア活性化策の検討を終え、当該事業も事業内容の見直しに向かって個別の検討が進んでいる。

⑤. 公会堂利用促進事業（米子市）

事業実施期間	平成26年度～ 【実施中】
事業概要	ホールはもとより、ホワイエは市民ギャラリーやミニコンサート等、広場は憩いの場やフリーマーケット等、多目的なイベント利用への働きかけをし、来街者を増やす。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成26年3月のリニューアルオープン後、ホール利用に留まらず、ライブや夏まつり、イルミネーション点灯式などの様々なイベントが行われ、来街者数増に繋がっている。前庭は全面に芝生が張られて開放的な空間となり、平成30年度においても、盆踊大会会場などとして活用されている。さらには、米子商工会議所が実施する「米子グランマルシェ」など各種イベントの開催など、申請のある利用のみならず、数字に表れない市民の憩いの場としての効果も現れている。
事業の今後について	「角盤町中心市街地にぎわい創出プロジェクト」において、同エリアに

いて

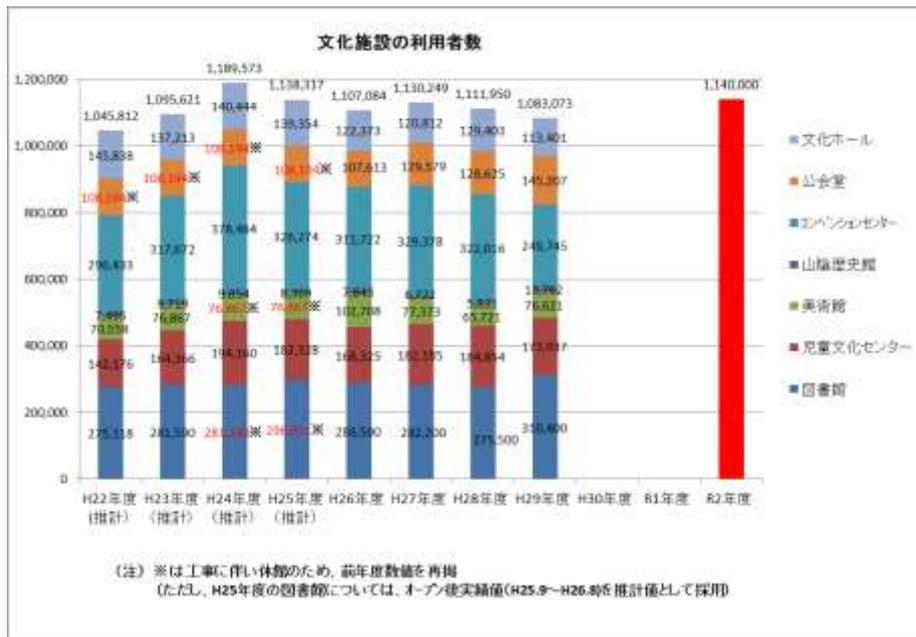
おける官民の連携が積極的に図られており、公会堂利用促進は今後も進んでいくものと見込まれている。

●目標達成の見通し及び今後の対策

J R 米子駅は交通の拠点としての機能を有しており、近年飲食店の出店や新たなホテルの建設など賑わいを見せている。商業の面からも、米子駅前エリアでは商業核の一つであるイオン米子駅前店が満床になるなど、明るい兆しが見えている。角盤町エリアにおいても「やよいデパート」撤退の影響からエリア全体の事業再構築が必要となったが、平成30年度には官民一体となった「角盤町中心市街地にぎわい創出プロジェクト」が組織され、ソフト事業の積極的な展開により活性化が図られている。令和元年度には、同エリアで再構築された事業の展開が見込まれており、新たなにぎわいの創出による駐車場利用台数の増加も期待されることから、目標達成は可能であると見込まれる。

「文化施設の利用者数について」 ※目標設定の考え方基本計画 P70～P73 参照

●調査結果の推移



年	(人/年度)
H25	1,138,317 (基準年値)
H26	1,107,084
H27	1,130,249
H28	1,111,950
H29	1,083,073
H30	
R 1	
R 2	1,140,000 (目標値)

※調査方法： 事務報告等

※調査月： 平成30年9月（前年度4月～3月の合計）

※調査主体： 米子市

※調査対象： 文化ホール、公会堂、コンベンションセンター、山陰歴史館、美術館、児童文化センター
図書館の計7箇所の文化施設

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 山陰歴史館整備事業（米子市）

事業実施期間	【未】 [認定基本計画：平成28年度～平成31年度]
事業概要	「伯耆の国よなご文化創造計画（後期計画）」に基づき、老朽化している山陰歴史館を整備することにより、来館者や利用者の拡大を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成27年度に米子市庁内プロジェクトチームを組織し検討を重ねている。平成30年度は、小規模な改修を行い来客者の利便性の向上させ、ソフト事業を通じて入館者数の増加につなげた。整備の完了により、1,987人/年の利用者の増加を見込んでいる。
事業の今後について	整備については庁内プロジェクトチームによる検討を引き続き行い、改修を実施していく。利用者の拡大については、「米子城・魅せる！プロジェクト事業」等との連携を図り、山陰歴史館の利用拡大を図っていく。

②. 新生米子市立図書館の運営（米子市）

事業実施期間	平成 25 年度～ 【実施中】
事業概要	図書の出しのみならず、ビジネス支援、多目的スペースを活用した市民の生涯学習の発表の機会の提供などを含めた図書館の運営
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	来館者数については、平成25年8月のリニューアルオープンから堅調に推移している。進捗状況として、図書館の利用案内（パンフレット）、ホームページ、図書館だより（毎月1回発行）等に多目的スペースのPRやイベント案内を掲載し、特定のテーマに特化した展示コーナーを増やすなど利用促進に努め、多様なニーズに対応している。また公式SNS（Facebook、Twitter、Instagram）を開設し、イベント情報や研修室開放状況など即時性の高い情報を提供することで、幅広い年齢層の新たな図書館利用者の拡大に努めている。
事業の今後について	図書館来館者数は堅調に推移しており、引き続き利用者の拡大に努める。

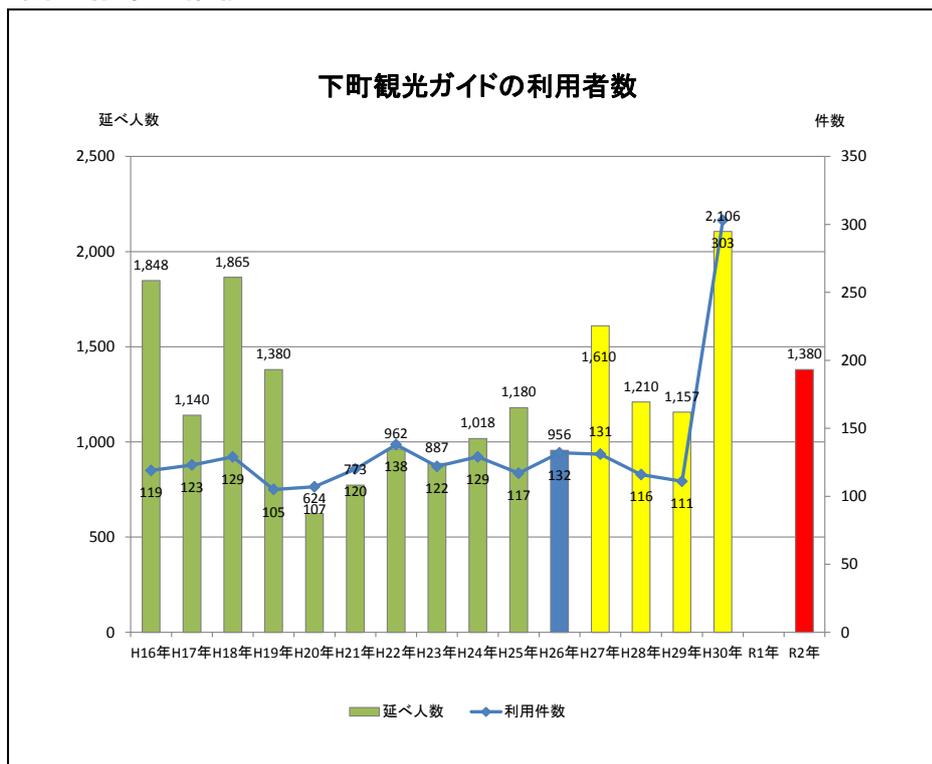
●目標達成の見通し及び今後の対策

文化施設の利用者数については、コンベンションセンターの改修により減少したが、その他の施設利用者は概ね堅調に推移している。コンベンションセンターの改修が完了し、今後予定されている「山陰歴史館整備事業」の実施や、SNSを駆使した魅力の情報発信による利用者数の増加により、目標達成は可能であると見込まれる。

なお、平成26年度の数値は認定前の調査による。

「下町観光ガイドの利用者数について」 ※目標設定の考え方基本計画 P73～P75 参照

●調査結果の推移



年	(人/年)
H26	956 (基準年値)
H27	1,610
H28	1,210
H29	1,157
H30	2,106
R 1	
R 2	1,380 (目標値)

※調査方法： 米子市観光協会と米子まちなか観光案内所がとりまとめている利用者数を集計し、把握

※調査月： 平成31年1月（前年1月～12月の合計）

※調査主体： 米子市

※調査対象： 城下町観光ガイド利用者

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 山陰歴史館整備事業（米子市）

※基本計画における目標数値達成のための事業

山陰歴史館整備に伴う増加 増加見込み 111 人に係るもの

事業実施期間	【未】 [認定基本計画：平成28年度～平成31年度]
事業概要	米子城跡のガイダンスや城下町観光の拠点施設としても機能するように整備し、市民や観光客が気軽に訪れることができる環境を整える。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成27年度に米子市庁内プロジェクトチームを組織し検討を重ねている。平成30年度は、小規模な改修を行い来客者の利便性の向上させ、ソフト事業を通じて入館者数の増加につなげた。整備の完了により、111人の城下町観光ガイド利用者数増加を見込んでいる。
事業の今後について	「米子城・魅せる！プロジェクト事業」等との連携を図り、城下町観光ガイド事業のPRを行い、利用者拡大を図っていく。

②. 城下町米子観光ガイド(米子観光まちづくり公社)

※基本計画における目標数値達成のための事業

新規ルート設定による増加 増加見込 22 人に係るもの

事業実施期間	平成13年度～ 【実施中】
事業概要	地元ボランティアガイドによる城下町の観光案内。 平成28年度からは既存のモデルコースだけでなく、新規コースの開発にも取り組むことによって、リピート客への対応や多様なニーズを受け入れる。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成30年4月よりガイド事業を「米子観光まちづくり公社」がおこなうようになった。公社が実施する観光ガイドは、従来のモデルコースのみならず、旅行者の要望に合わせたコースを設計して実施しており、リピート客への対応や個人旅行者の多様なニーズに対応することが可能となった。これにより、利用者の大幅な増加につながった。
事業の今後について	一層の官民の連携を図り、観光ガイド利用者の増加に努めていく。

③. まちなか「小路」案内板設置事業(よなごの88選実行委員会)

事業実施期間	平成26年度～30年度 【済】
事業概要	中心市街地に残る約400年前の「町割り」を形成する「小路」の位置や名称を特定し、案内板を設置する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成26年度11枚、平成27年度16枚、平成28年度4枚の案内板が設置された。これにより市民や観光客を城下町の面影が濃く残る町並みへ誘導し、「小路」の歴史や魅力をより感じながら散策することができるようになり、城下町観光ガイドの充実と交流人口の増加に繋がった。
事業の今後について	事業は平成30年度に完了しており、事業成果を活用することで、観光ガイドの充実と交流人口の増加に繋がりたい。

④. 米子のまち 小路めぐりマップ作成(よなごの88選実行委員会)

事業実施期間	平成27年度～30年度 【済】
事業概要	まちなかの「小路」の歴史的な背景を学ぶと共に、現代の町の魅力や歴史的背景を味わえるよう、楽しいまち歩き提案とマップを作成する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	29年3月にマップ完成。市民や観光客を城下町の面影が濃く残る町並みへ誘導し、「小路」の歴史や魅力を感じながら散策することにより、交

	<p>流人口の増加に繋がった。なお29年度末には、集大成としてガイドブック「よなごの小路八十八選」が発刊され、30年度には増刷をしている。城下町観光ガイドやまち歩きイベントでの活用が期待されている。</p>
<p>事業の今後について</p>	<p>事業は平成30年度に完了しており、事業成果を活用することにより、観光客の満足度の向上やリピーターの増加に繋がりたい。</p>

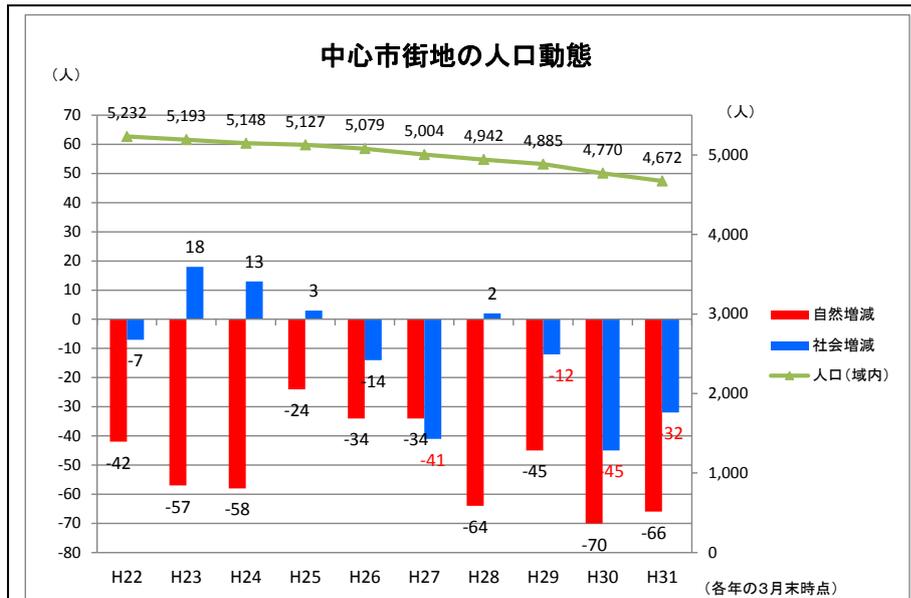
●目標達成の見通し及び今後の対策

平成30年4月から観光ガイド事業を「米子観光まちづくり公社」が実施することになった。そのことを契機に観光ガイド利用者が大幅に増加し、今年度は目標値を越える利用者数となった。

今後も、官民が連携して利用者数の増加に努め、「まちなかを巡るモニターツアー」や「ブロガーを活用した情報発信」を積極的に行うことによってまちなかの魅力をPRし、個人旅行客の取り込みやリピーターの増加に繋げることで、目標達成は可能であると見込まれる。

「人口の社会増減について」 ※目標設定の考え方基本計画 P76～P79 参照

●調査結果の推移



年	(人)
H27	H22～27年の平均 -5人 (基準年値)
H28	2人
H29	-12人
H30	-45人
H31	-32人
R 2	
R 3	H28～R3年の平均をプラスに (目標値)

※調査方法：住民基本台帳から集計

※調査月：平成31年4月（前年度4月～3月）

※調査主体：米子市

※調査対象：中心市街地区域内

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 民間共同住宅建設事業（民間事業者）

事業実施期間	平成27年度～ 【実施中】
事業概要	民間事業者による共同住宅の建設
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成27年度 3棟（110戸） 竣工 平成28年度 3棟（48戸） 竣工 平成29年度 1棟（3戸） 竣工 平成30年度 1棟（18戸） 竣工 これらの共同住宅の建設により、次回調査時に効果が現れることを期待している。
事業の今後について	中心市街地の高い機能性や利便性を情報発信し、民間事業者による開発の後押しをしていく。

②. まちなか空家活用プロジェクト（米子まちなか空家活用プロジェクト運営会議）

事業実施期間	平成25年度～ 【実施中】
事業概要	空き家を改修し、地域交流スペース機能を備えた若者向けシェアハウスの整備及び「岩倉ふらっと」の管理・運営

国の支援措置名 及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進 捗状況	新規物件については掘り起し中。 「岩倉ふらっと」は学生向けのシェアハウスとしての活用や、地域に開 かれたイベント拠点として活用されており、平成30年度は4回開催し た。
事業の今後につ いて	他団体とも協力して新規物件の掘り起こしを行い、「岩倉ふらっと」にお いては安定した管理・運営につとめる。

●目標達成の見通し及び今後の対策

中心市街地の人口の社会増減については、平成30年度は昨年度に引き続きマイナスとなった。これは、民間共同住宅の竣工に伴う転入者以上に転出者があったためと考えられる。

人口の社会増に効果の高い大規模集合住宅は、中心市街地の外周部で建設が続いているが、中心市街地内に誘導できていない状況である。

今後も、中心市街地の高い機能性や利便性を情報発信し、民間共同住宅の建設や空き家活用を促すことに積極的に取り組んでいくとともに、現状では目標達成可能とは見込まれないことから、対策について検討を重ねる。